

事業名称	「こころが繋がるこの1冊」事業
団体名・代表者	特定非営利活動法人コムサロン二十一 理事 前川 裕司
協働の相手方	姫路市総合福祉会館

目的	ひきこもり家族の相談を受けていると、親自身が本人にどう関われば良いのか苦悩されていることが多い。そこで、家族がどのように声をかけて良いか困った場面を切り出し、ひきこもり本人に伝えてもらうことで、Q&A による声掛けの参考事例集を作成する。保護者、ひきこもり当事者の相互理解も深まり、家庭内で話すきっかけを作り、親子間で温かいコミュニケーションが育まれることを目的とする。
内容	ひきこもりの子どもを持つ保護者から、「（子どもと）どう関わっていけば良いか分からない」と相談を受けることが多い。その言葉の背景には、「自分の言葉で子どもを傷つけてしまわないだろうか」という保護者の不安を感じ取られる。本事業では、保護者がひきこもりの子どもと話をする場面を、当事者家族に対してのアンケートやグループインタビューを通して調査、結果の集約を行った。次に、当事者が、集約したそれぞれの場面において、家族からどのような対応がなされると受け入れやすいかについて、ひきこもり当事者へのインタビューを実施し、共に考え、家庭内で当事者と家族が関わる際の対応事例集を作成した。
事業経過	<p>令和4年7月11日 場所：姫路市総合福祉会館 姫路市ネットワーク会議（不登校・ひきこもり支援ネットワークひめじ）での協議</p> <p>令和4年7月14日 場所：姫路市総合福祉会館 第1回姫路市総合福祉会館との打ち合わせ</p> <p>令和4年8月 関係機関（以下）との打ち合わせ ・宍粟市福祉相談課・赤穂市社会福祉課（家族向けアンケートの依頼） ・姫路保健所健康課（家族向けアンケートの依頼） ・NPO 法人テンペラーレ（家族向けアンケートの依頼） ・あかし保健所（家族向けアンケートの依頼）</p> <p>令和4年8月16日 場所：姫路市総合福祉会館 第2回姫路市総合福祉会館との打ち合わせ</p> <p>令和4年8月20日 家族向けアンケートのヒアリング 播磨ランチ（親の会）</p> <p>令和4年9月9日 家族向けアンケートの協力依頼 姫路保健所（家族学習会）</p> <p>令和4年9月中旬頃迄 家族向けアンケート結果集約</p> <p>令和4年9月22日 場所：姫路市総合福祉会館 第3回姫路市総合福祉会館との打ち合わせ</p> <p>令和4年9月25日 家族向けアンケートのヒアリング 姫路マザーハーブの会（親の会）</p> <p>令和4年9月29日 場所：姫路市総合福祉会館 姫路市ネットワーク会議（不登校・ひきこもり支援ネットワークひめじ）で協議 有識者・姫路市総合福祉会館との打ち合わせ</p> <p>令和4年10月13日 場所：姫路市総合福祉会館 第4回姫路市総合福祉会館との打ち合わせ</p>

事業経過	<p>令和4年11月7日～11月30日 当事者インタビュー</p> <p>令和4年11月15日 有識者との打ち合わせ</p> <p>令和4年11月17日 場所：姫路市総合福祉会館 第5回姫路市総合福祉会館との打ち合わせ</p> <p>令和4年12月7日 場所：姫路市総合福祉会館 第6回姫路市総合福祉会館との打ち合わせ</p> <p>令和4年12月19日 冊子デザインの打ち合わせ</p> <p>令和4年12月23日 「第3回相談マルシェ」で提案型協働事業の経過報告</p> <p>令和5年1月18日 場所：姫路市総合福祉会館 第7回姫路市総合福祉会館との打ち合わせ</p> <p>令和5年2月6日 冊子校正依頼</p> <p>令和5年2月21日 場所：姫路市総合福祉会館 第8回姫路市総合福祉会館との打ち合わせ</p> <p>令和5年3月6日 場所：姫路市総合福祉会館 姫路市ネットワーク会議（不登校・ひきこもり支援ネットワークひめじ）で最終報告</p> <p>令和5年3月9日 冊子発注</p> <p>令和5年3月中旬 関係機関へ配布</p>
事業の効果	<p>○当事者 インタビュー中に語られた、当事者たちが「大したことはない」と思われていた内容は、家族や支援者にとっては教えていただかないと理解しえないことであり、それら当事者の声を必要とされている方に、この冊子を通して届けることができたのは彼らにしかできない社会参加だったと考える。それぞれの人生体験を語ることにより、自己理解を深めることができた。これまで他者に打ち明けてこなかった気持ちを表出できた方もいた。</p> <p>○家族 当事者家族への調査場面においては、同じような境遇の他の家族と話し合う中で、共感や励まし合う様子が見られた。冊子を読んだ家族においては、「普段知ることができない当事者の考えや気持ちを知ることができた」「子どもも子どもなりに悩んでいることが理解できた」「関わりのヒントになった」等といった感想をいただいております、当事者に対する理解が深まったこと、当事者への関わりの参考となること等が冊子の効果としてもたらされたと考える。</p> <p>○支援者 作成の一連のプロセスを通して、支援者（インタビュアー）と当事者（インタビュイー）間の信頼関係がより深まった。その結果、その後の支援へも良い循環を生んでいる。また、当事者の実際の声について冊子を通して知ることができ、支援者の当事者理解が深まった。当事者の気持ちに寄り添い、当事者主体の支援を展開していくことの重要性を改めて確認できた。</p>

今後の展望

- ・本冊子が色々な場面（保健福祉、医療、教育等）で、困っている家族の手に届くように、関係者間の繋がりを活用しながら、まずは周知に努めたいと考える。
- ・冊子の普及に伴って、これまで相談に繋がっていなかったひきこもり当事者やその家族からの相談の増加が見込まれるため、支援体制をさらに整えていく必要がある。
- ・地域住民の方に、ひきこもりについての理解を深め、地域での受け皿の拡充、許容度を高めていくために、工夫を凝らしながら普及啓発にも活用していきたいと考える。
- ・支援者については、本冊子を手渡すことで支援を完結させるのではなく、家族との相談内容を深めていく過程で活用していただきたいと考える。冊子を手にとられた家族や、活用される支援者の感想等も今後確認しながら、本冊子を通して、家族・当事者間の関わりがより温かいものとなるような、効果的な活用方法についても引き続き検討を行っていきたい。

【実施団体の事業総括・感想等】

平成30年度より本事業の助成を受け、行政と民間の協働によるネットワーク会議を開催し、令和2年度には居場所の試行的実施、その後、令和3年度より「姫路市ひきこもり支援推進事業」を姫路市より受託し、居場所“ぷちたぷち”を運営しています。

本事業では、ひきこもり状態の方のご家族が当事者への理解を深め、関わる際の一助となる事例集を作成しました。本冊子を手にとられたご家族と当事者のところが繋がることを第一の目的として取り組んでまいりましたが、作成過程において、相談に来所中の方々の「当事者としての声」を、インタビューを通して我々支援者が受け止めていく中で、これまで以上の彼らとの「繋がり（信頼関係）」が育まれました。また、本事業に協力していただくことで、相談に来られている当事者と社会との「繋がり（社会参加の機会）」も生まれました。作成中には関係機関による検討の場を持ち、関係者同士の理解が深まり、関係者間の「繋がり（連携）」も強くなったように思います。さらに今後、冊子の普及啓発を行う中で、支援者間の繋がりはより確かなものになっていくと感じています。このように冊子作成の一連のプロセスを通じて、「当事者と家族」「当事者と社会」「当事者と支援者」「支援者同士」といくつもの「繋がり」が生まれたことは、大変意義ある取り組みになったことと感じております。

ひきこもり状態の方も、そうでない方も、地域で暮らすすべての方が暮らしやすい地域となるよう、この冊子によって生み出される「繋がり」を地域住民の方にも広めていけるよう、私達も積極的に活動していく所存です。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

ひきこもり支援は、当事者への支援だけでなく、当事者を取り巻く家庭などの周辺環境への働きかけが求められる。本市から同団体に委託している業務では対応が困難な領域を、提案型協働事業を通して実施できた。

結果、同団体が培ってきた官民のネットワークの参加団体や他都市、学識経験者などからも協力を得て、多くの事例からの考察に裏付けられた成果物が完成した。今後、本市のひきこもり支援事業へのフィードバックも期待されることから、連携の意義は大きかったと考えている。